

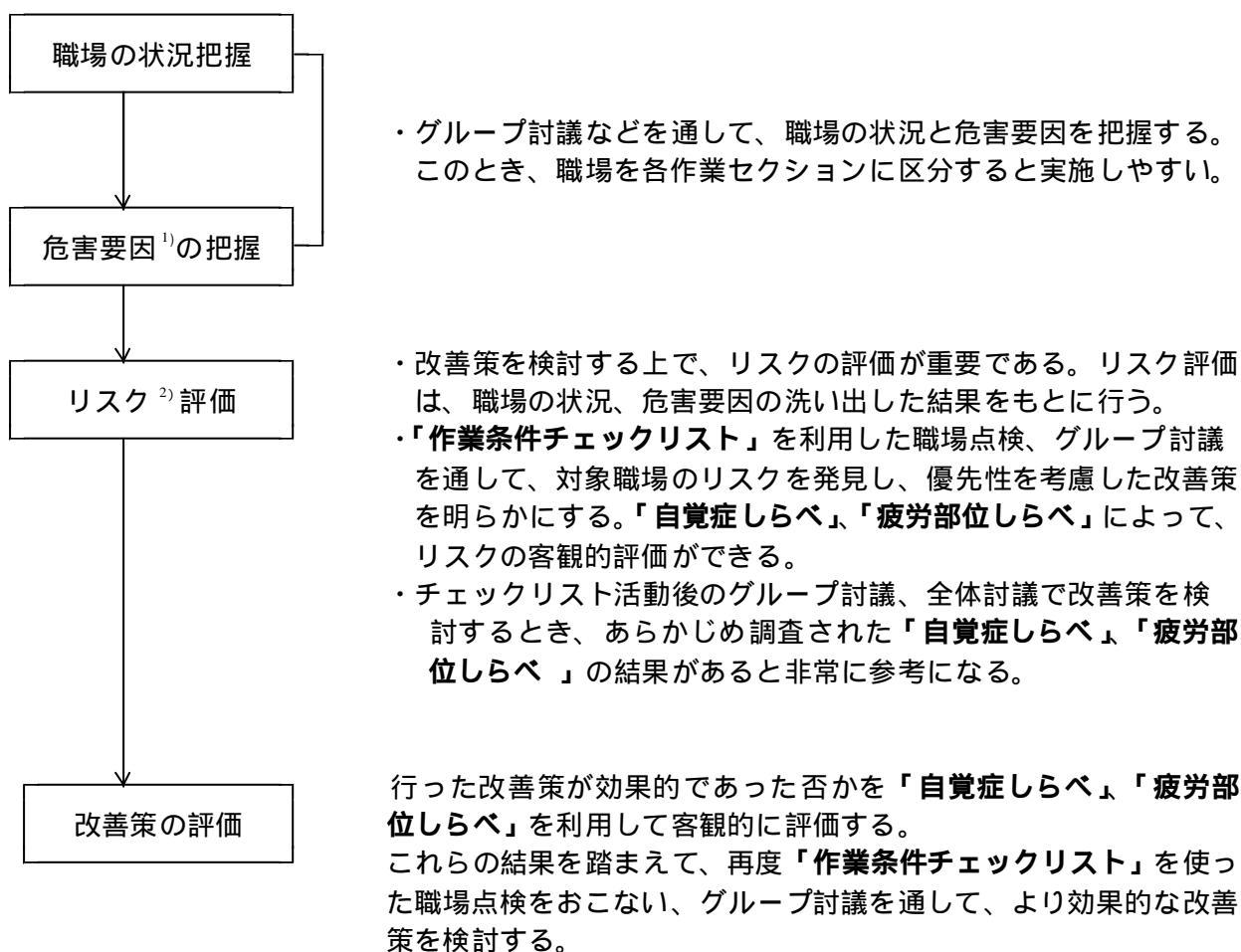
作業条件改善のための調査ツールの提言

日本産業衛生学会産業疲労研究会

職場で効果的な作業条件改善を実践するには、現場に携わる産業保健スタッフや労働者の自主的で、かつ各職場の特徴を生かした作業改善への取り組みが必要です。とりわけ、個々の事業場が状況に応じて、産業保健の基本方針を立て、組織を編成、計画を立案し、適切なリスク評価（アセスメント）を行い、継続展開していくことが重要です。今回、職場で産業疲労に関する作業条件改善を実践するためのツールとして、「作業条件チェックリスト」、「自覚症しらべ」、「疲労部位しらべ」の3調査票からなる快適職場づくりのためのパッケージ調査票を作成しました。

以下に、リスクアセスメントの流れに沿って、本調査パッケージの使用例を示しました。

リスクアセスメントに沿った本調査票の使用法の例



注)

- 1) 危害要因（ハザード）は労働者の健康を障害する可能性がある全てを指します。したがって、作業時間、作業方法、精神的負荷、気温、照度などでも労働者の健康に影響を及ぼす可能性があれば危害要因となります。
- 2) リスクとは労働者が危害要因に暴露した場合に、生じる健康障害の可能性と重大性を総合した指標です。